

寺報 信仰文化

通刊 39 号

千葉県いすみ市荻原2136 ☎0470(86)3816
行元寺発行 FAX 同上

歓迎

観光・研修旅行

・JR 大人の休日倶楽部

富士急観光 西武高原バス クラブツーリズム
農協観光 江南トラベル ヤサカ観光 レイワ観光 ほか



日本一大きな葵紋に本邦唯一の高松又八の彫刻 一行元寺ー

学術、文化発信「上野の森」

基いは東叡山初代学頭 亮運に！

徳川家拝領
天海画像



亮運画像
ー光明寺蔵ー



大僧正亮運

霊前石灯籠

移築慶讃法要

平成二十一年十一月四日

行元寺

天海大僧正と共に

徳川家康・家光公の講師

第十八世 行元寺亮運

テレビ等のドラマにも登場する
天海は、家康の黒衣の宰相、
またブレインとも呼ばれ、南光

坊天海の名をもって広く知られ、
慈眼大師の諡名をもつ。

(次ページへ)

弁論博学の第一人者 成東 光明寺で出家 住職

この天海と共に家康の講師を務めたのが、行元寺第十八世亮運で、行元寺に在職した頃の名は「定賢」のち「巖海」

「亮運」と改名している。

ところで亮運は、総州は武

射郡富田村（限千葉県山武市富田）に、永禄元年（一五五八）四月八日に生まれた。九歳で富田光明寺の賢栄につき、十五歳で難髪して定賢と名づけられた。学問に秀で弁論博学で知られた。上州江戸崎の天龍和尚と問答対決して認められたのが十九歳のときで、これよりのちは弁博の第一人者として名をなした。文禄三



長持
一東陽寺蔵一
家康、亮運の
銀10枚、被物2領など賜わる。

亮運が行元寺住職に就いたこととて、夷隅川以北の天台宗の寺々の多くは改宗を免れ、法灯を堅持して現在に至っているといつてよい。赴任したその六月は、荻原地方の農家は旱天のため苦

年（一五九四）光明寺住職の座についた。

慶長九年（一六〇四） 行元寺へ晋山

それから数年たった慶長四年ごろともなると、日蓮宗徒と天台宗徒との対決が激しくなつて、互にくすぶり続けていた。こんな事情から亮運が行元寺十八世住職に拔擢されたのである。天台教学に通じ博学多才、しかも弁舌にすぐれている点からであった。ときに関ヶ原の戦の数年後の慶長九年（一六〇四）六月である。

しんでいた。大多喜城主本多忠朝の命で、亮運が祈雨法つまり雨乞いを修したところ『雨沛然と降る』（東叡山諸記

本多忠朝 亮運に帰依

温情でドン・ロドリゴ一行助ける

さて、亮運が行元寺住職となつて五年の慶長十四年（一六〇九）九月三日のこと、フイリピン諸島臨時長官の任を終えたドン・ロドリゴ一行が、ノビスバニヤ（メキシコ）へ向かう途中に上総岩和田（御宿町）沖で暴風のため遭難した。自力と海女の救助で三百十七名が助かり、大多喜城に知らされ、これを聞いた城主本多忠朝は「厚く優遇せよ」と温情ある命を發した。

三十七日間、岩和田で過ごした一行は大多喜城に招かれ歓迎された。ドン・ロドリゴは「日本見聞録」を書いて、城のようすや大多喜城下の人口まで記した。一万ないし一万二千とある。当時、房総きつての人口があったことがわかる。一行は江戸で秀忠に、駿府で家康の接待を受け、家康から京都見物までのサービスで豊後臼杵から帰国した。ドン・ロドリゴがノビスバニヤ（メキシコ）の首都メヒコ市の近くにあるタスコ銀山の長官であつたと知つた家康は、新しい精錬法をきくために、再度駿府に招いて半年にわたつてサービスにつとめた。この結果、アマルガム法を知つたのである。ドン・ロドリゴは京や堺の商人等と翌十五年、アダムス（三浦按針）が造つてあつた、サンタ・ベナンス号で無事ノビスバニヤに帰つた。これが日本人最初の太平洋横断であつた。ロドリゴの技術指導で徳川政権は豊かになつたことは言うまでもない。

亮運、駿府城で問答 「関東天台法度」成立

行元寺亮運は天海大僧正と共に家康のもとに足を運ぶ。行き先は駿府城で、公的記録によると慶長十八年二月十八日の記録が一番古い。駿府城で比叡山正覚院豪海と行元寺

亮運、また天海と亮運と問答を行つて家康を満足させた。あと二十三日と二十八日も行ない、家康は亮運に酒食と銀十枚さらに被物二領をおくつた。これによつて「関東天台宗法度」が成立して、関東天台の権力が重んじられ、全権が関東方に吸収されたといふ。

この年、つまり慶長十八年十月二十九日、天海は川越喜多院で論議を行ない、家康が聴聞しそのときの講師を亮運がつとめた。翌十九年には家康のもとで、天海と亮運は毎月、数日にわたつて講師となつてゐる。ここで家康は天台血脈を受けたのである。

行元寺の唄と 踊りで家康歓待

この慶長十九年（一六一四）正月、家康は上総東金に鷹狩にやってくる。東金間の御成街道が三日三晩でできたのであつたが、大多喜城主の本多忠朝は悩んだ。日ごろから家康に「父忠勝に似ぬ臆せし」のレッテルをはられていたからだつた。そこで行元寺亮運に同行を頼み、荻原村の村人は家康の乗馬の薬を進上、

城主は大多喜名物の紫鯉を贈り、更に村人は行元寺の唄と踊りで歓待した。家康はこれによって満足、萩原の村人に鷹場免除の黒印と、鳥銃十挺をくれたという。

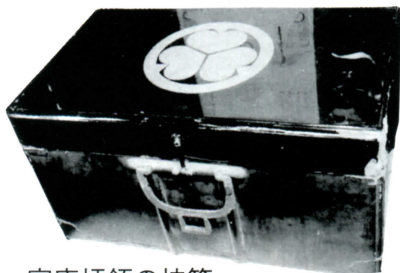
家康の父子比較 忠朝夏の陣で討死

その十一月に大坂冬の陣が起った際、陣地が雨に濡れて条件が悪く、部下の難儀を思っ家康に陣地の変更を願った。

家康は怒り「汝が父は山をも川をも嫌ったことなし」と叱り飛ばした。無念に思った本多忠朝は、あくまで大坂夏の陣で名譽挽回、愛馬「百里」にまたがって敵陣深く進んで首級をあげ討死、萩原の土橋加兵衛、引田の土屋太郎八、大野の藤平次右衛門などが忠朝に従って奮戦活躍討死した。

天海大僧正 寛永寺を創建 亮運 初代学頭職に

一方、天海は、二代秀忠から上野台地の一部を拝領し、三代家光は上野忍ヶ岡の地と秀忠の旧殿、そのうえ白銀五万両を天海に与え、江戸城鬼



家康拝領の挟箱

忠朝はじめそれに従った武将たちの墓は、大阪一心寺にあつて、今も香煙が絶えない。その翌年に家康は他界した。これに合わせるように亮運は十三年にわたる行元寺住職を辞して、元和三年（一六二七）上州行方の西蓮寺へ、ついで下野の佐野惣宗寺、同六年上州黒子の千妙寺に移った。定賢、豪海、そして亮運と名が替わるのだが、千妙寺歴代の「亮」の字をとった由縁による。

亮運ゆかりの行元寺に

上野寛永寺 凌雲院 霊前石燈籠寄進

関東各地に檀林などを設けた。各檀林等有機的に結んだことで、多くの俊英が集まって天



台教学は伸展、江戸との交流が盛んとなる。

寛永二十年（一六四三）天海は一〇八歳で他界し、あと亮運が家光の師となる。天海は関東天台の生みの親とされ、一方亮運はその育ての親だと言われている。こうして多くの業績をおさめた亮運も、慶安元年（一六四八）十一月四日九十一歳で入寂した。あと亮運の住した寛永寺凌雲院は、歴代学頭職の居所となつて、將軍は代々凌雲院に帰依した。現在、上野公園界隈が学園や芸術のメッカとなつている

行元寺日誌抄（21年）

- | | |
|-------|--|
| 3/28 | ちばDCファイナレでJ R仙台駅長ら二十余名来寺 |
| 4/5 | 新田総代会 会長渡辺義夫氏 副田中國男氏 会計に古山忠正氏新役員に決定 |
| 4/14 | 五十嵐県警本部長外5名来寺 |
| 5/15 | 国土交通省局長外来寺 |
| 5/22 | J R東日本文化財団、山門支援金 三百万円贈呈式 |
| 6/1 | 御詠歌東日本大会（栃木）渡辺久子、秋葉敏子、好士弘子氏ら参加 |
| 6/19 | 大多喜町弓木 森寿一氏九十余冊 図書を贈られる |
| 7/27 | 彫刻研究会 上野寛永寺で歴代將軍墓参 |
| 8/24 | 古山忠正氏外、西光寺太田芳輝氏、太田功氏ら三名、比叡山戸津説法聴聞 |
| 9/5 | 上原西光寺始魔堂地鎮式 |
| 9/6 | 東京善養寺館克亮師「亮運石灯籠」を当寺へ寄贈 |
| 10/7 | 山谷敏政氏夫妻来寺、山谷鉄一画伯の牡丹画を寄贈 |
| 10/10 | 成東光明寺から亮運肖像画、天海肖像画借用、東陽寺から亮運関係長持、挟箱借用、本堂内陣にまつる |

山門彫刻の極彩色復元

裏側、中通り近く完成



高所に掲げるので細かくは見えなくなる

羅漢と寅図彫刻ほか

行元寺山門の彫刻を極彩色の寛永文化に復元する漆工事は二十年春からすすめられ、二十年八月に前面が完工した。つづいて裏側および山門中通りの彫刻および柱や壁面など丹色に戻す復元工事中で、近く完了する予定。顔料は瑠璃

北斎漫画、挿絵など紹介

—佐倉城下の柳屋店頭図—
高弟、辰斎の肉筆画も

(ラピスラズリ)や孔雀石、水銀からの朱、丹土など用いて桃山文化と元禄文化の中間にある奇麗美を誇る寛永の輝きに返す。J R東日本文化財団が十九年から二十一年度まで四百萬円の支援、さらに井上ツヤ氏の百五十萬円の特別志納、ほかに鶴岡はな子氏はじめ檀徒の多額の特別浄財、県下ほか他県からの多くの方の浄財志納、拝観料、布施等すべてを投じての復元中である。

当山の波の伊八の「波に宝珠」彫刻が葛飾北斎に大きな影響を与えたとして、伊八彫刻を拝観に訪れる人々で連日賑わっている。

浮世絵研究家として知られる仁科又亮氏の支援を得て、いま北斎高弟の辰斎(しんさい)の肉筆画を紹介している。辰斎は名を政之といい、寛政から文化にかけて活躍した。



狂歌は六樹園
宿屋飯盛の作



埼玉県立高校PTA連
北部支部百五十余名
行元寺で研修

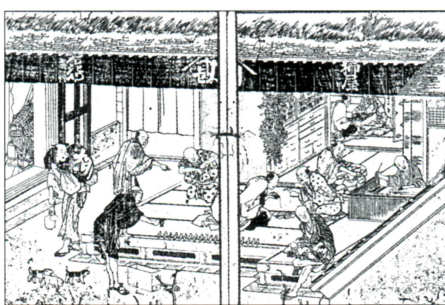
埼玉県立高等学校PTA協議会北部支部百五十余名が、十月十八日(日)行元寺本堂で市原住職の講演「感動が人生を高める」を聞いて彫刻など拝観、研修に務めた。写真上

長野からバス数十台

去る七月から十一月末日にかけ、長野県東信地域から年金受給者団体研修で来寺している。

北斎と六樹園を吉原へ迎えに行つたときの座画。印を持つていなかったため北斎の印を捺してある。辰斎の作は北斎の美人画そっくりと言われる。六樹園は狂歌師として知られ、宿屋飯盛の名で北斎と親交があった。また「飛騨匠物語」を北斎の挿絵で出版している。更に紹介してあるのは、房総を舞台にした談州楼馬

(えんば)の作品「忠孝潮来府志」(全六巻)は北斎の挿絵で稀本とされる。行徳・大和田・小金原・船橋・成田・検見川・馬加里(幕張)・白井・東金・保田・加知山・鎌ヶ谷・松戸・我孫子などの地名が出ていて、房総を舞台にした小説として「里見八犬伝」に敵するとされている。ほかに北斎漫画も必見の要がある。



佐倉城下柳屋店頭図 北斎

紹介期間

○ 天海・亮運・北斎関係
12月15日まで
○ 山門彫刻
11月上旬まで